

講義名	(対面)自己発見とキャリア開発B(水1クラス)		
科目区分	全学基幹科目		
担当教員	村上 友章		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	2020年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2020年度 人間社会学部 観光学科 / 2020年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2020年度 経済学部 経済情報学科 / 2020年度 経済学部 経済学科 / 2020年度 商学部 マーケティング学科 / 2020年度 商学部 経営学科 / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人	1年生	単位数 2 備考

主題と概要			
<p>第1 Semesterの「自己発見とキャリア開発A」のクラスを継続して、クラスメンバーや担当教員との相互啓発的環境の中で様々な活動を行う必修科目です。今のところ対面での実施を予定しており、前期には十分には実施できなかった、対面でのコミュニケーションを生かした活動を行う予定です。授業前半では「グループ活動を通じた、何らかの課題研究の実施と発表」を実施し、企画立案・展示物作成等を行うことを中心とする予定です。授業後半では、「自己発見とキャリア開発A」で考えた「学びの道筋(キャリアビジョン)」が順調に進んでいるかどうかを確認し、以降の学びの道筋を考えます。</p> <p>。コロナ禍の状況により対面授業が実施できない状況となった場合も、オンラインでグループ活動を実施して上記と同様の活動を実施する予定です。</p>			

到達目標			
<p>「グループ活動を通じた、何らかの課題研究の実施と発表」に取り組む中で、グループや個人で設定した課題に取り組み、その課題を達成する。「コミュニケーション力」「常識力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」など、本学で学ぶために不可欠であり、かつ社会に出てから必要な基礎能力を向上させている。「自己発見とキャリア開発A」で考えた「学びの道筋(キャリアビジョン)」が順調に進んでいるかどうかを確認して、新たに計画を作成する。</p>			

提出課題			
<p>前半は、「グループ活動を通じた、何らかの課題研究の実施と発表」に関わる成果物を提出する。後半は、「自己発見とキャリア開発A」で考えた「学びの道筋(キャリアビジョン)」が順調に進んでいるかどうかを確認するための資料を、担当教員の指示に従って提出する。</p>			

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック			
<p>「グループ活動を通じた、何らかの課題研究の実施と発表」については、クラス内で発表してクラス学生相互で啓発し担当教員からの講評・解説の機会を設ける。さらに、クラスを超えて展示・参観・相互評価の機会を設けたいとも考えている。さらにRyuka祭の関連展示として、学外の方からの感想やご意見も頂戴する機会もできれば作りたいと考えている。</p>			

評価の基準			
<p>基本的には次の通りであるが、クラスにより差異がある。詳しくは担当教員から知らされます。平常点(出欠や授業中などの活動状況)50点、取り組んだ課題の出来栄を50点として、合計100点とする。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>対面で実施する予定である。前期には実施できなかったグループワークの機会や、対面でのキャリアビジョンの発表もありますので、積極的にプログラムに参加して楽しんでください。</p> <p>コロナ禍の状況により対面授業が実施できない状況となった場合も、オンラインでグループ活動を実施して上記と同様の活動を実施する予定です。</p>			

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
必要に応じて配布します。

授業計画
<p>担当教員ならびにクラスの状況により、進行には差異があります。</p> <p>1～9回 グループ活動を通じた、何らかの課題研究の実施と発表。</p> <p>10回～13回 個別面談またはグループ活動の継続</p> <p>14回・15回 2年以降の「学びの道筋(キャリアビジョン)」の作成と発表</p>

授業形態(アクティブ・ラーニング)	
ア:	PBL(課題解決型学習)
イ:	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:	ディスカッション、ディベート
エ:	グループワーク
オ:	プレゼンテーション
カ:	実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>前半の「グループ活動を通じた、何らかの課題研究の実施と発表」では、授業時間外にグループでの活動が必要です。また、面談のためのシートの作成や「学びの道筋」の再確認にあたって、まとめの時間が必要です。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
この授業の運営は、学生間ならびに、学生・教員間の相互啓発的な刺激の下に行われます。常に双方向授業として行われます。

実務経験の有無及び活用
この授業の担当教員の中には実務経験のある教員も多くなります。実務経験のある教員は、折に触れ自身の経験に即した指導を行い、学生がこの科目の目標を達成するための援助をします。

備考